【親鸞（中学）部門・奨励賞】

家族

札幌大谷中学校　第２学年　藤本　芽愛

　皆さんにとって、「宝もの」のように感じられる時間は、誰と過ごしているときの時間だろうか。私は、夏休みの何気ない一日の中のひと時が「宝もの」のように感じた。それは、私が部活の帰りに母と一緒にドライブをしたときだ。いつもは部活の後は家でゆっくりと過ごすが、私の汗をかいた部活の洗濯物を洗いに、コインランドリーに行った。洗濯が終わるまで、１時間くらい時間があったので、２人で夜のドライブに出かけた。車の中では、学校や部活の話でもなく、ただの世間話をしただけだったが、とても楽しかった。いつも家の中では、「明日の学校と部活の準備したの？」とか「今日は何か良いことあった？」という会話ばかりで、２人でゆっくり話す時間は少ない。しかし、ドライブの中では家の中とは違って、ゆっくりと２人の時間を楽しむことが出来た。いつもの家でゆっくり過ごす時間もいいが私は母と２人で出かけた久しぶりの夜のドライブが特別に感じた。母は、「一人で運転しているといつも長く感じるけど、今日はあっという間だったな。たまには、こういう時間も良いよね」と言った。私はその言葉を聞いて、「何でもない一日のちょっとした時間だったけど、とても楽しかった。そして、母と私にとっては、たまにしかすることの出来ない、２人だけの特別なゆっくりと過ごせる時間だったんだな」と感じた。ドライブの時間は、とてもあっという間に過ぎていった。何気ない日々の中に幸せに感じられる出来事が隠れている。だからこそ私は、誕生日や記念日などの特別な日の時間だけではなく、日常のちょっとした楽しめる時間をこれからも大切にしていきたい。